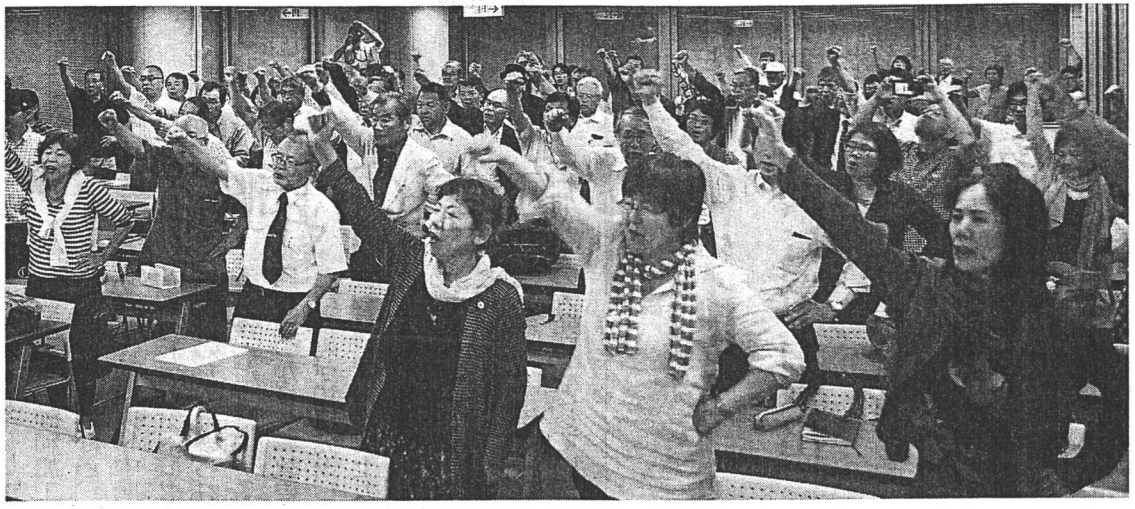
「大阪よくしたい」実現へ

「住民投票」勝利報告集会
維新の悪政一掃を

大阪市の廃止・解体が問われた住民投票で反対が多数を占めたことを受けて、「明るい民主大阪府政をつくる会」と「大阪市をよくする会」は19日、大阪市内で「住民投票」勝利報告集会を開きました。88人が参加し、勝利を喜び合いました。



今後のたたかいに向け、団結ガンバローをする参加者ら＝19日、大阪市

明るい会代表常任幹事の川本幹子新日本婦人の会大阪府本部会長が開会あいさつ。日本共産党の山中智子市議団幹事長が「議会が住民の審判を受け止めて、公募校長制や職員の政治活動の制限など（『橋下改革』の）たくさんの問題を総ざらいして、橋下市政といっしょに消えてなくならせるというたたかいがこれから待っている」と強調。「住民投票で示された、大阪市をよくしたいという市民の思いを実らせるために全力を尽くす」とあいさつしました。

よくする会の福井朗事務局長が、たたかいと経過を報告し「維新政治で出てきた悪いものは一掃し、たたかいでできた共同を進める中で、市民にとって良いものをつくっていこう」と呼びかけました。

各団体が発言

報告集会では、各団体の代表からこの間のさまざまな取り組みが報告され、今後の大阪をどうするかについての発言がありました。

「橋下・維新政治にレッドカード」と赤いものを身につけ宣伝してきた新日本婦人の会は「シール投票を活用して子育て世代と積極的に対話した。対話は10万8千を超えた」と紹介。自民党や共産党の議員など100人以上の女性が名前を連ねたアピールビラが大きな反響を呼んだことを報告しました。

中央区の「よくする会」は、「共同センター」を開設し、さまざまな人が訪れたことや商店街の店舗を借り、3日間で1200人と対話したことを紹介。

市役所労働組合は、職員基本条例などで政治活動を制限された中で「組合員をかやの外においてはいけないと、すべての組合員が行動することを追求してきた」と最後まで奮闘したことを報告。「新しい大阪をつくるためにどうしたらいいのか。自治体労働者の果たす役割を見つめ直す必要がある」と語りました。

日本共産党の駒井正男書記長は、住民投票は、論戦、共同、草の根の力を発揮して、維新の物量作戦を打ち破った「市民が主人公で勝利したたたかいだった」と述べました。「大阪を変えたい」と賛成票に入れた人の思いもくみ取り、新しい大阪市政、府政をつくるために全力を尽くそうと呼びかけました。

女性100人アピールビラ反響 ■ 物量作戦打ち破る